

1日80人超に 新型コロナワクチン接種をする

中村クリニックの 決断



新型コロナウィルスワクチン接種の予約が取りづらくなっている新潟市の状況は、本号が店頭に並ぶ頃にも続いているに違いない。したがって本稿で紹介されたクリニックに本誌読者の予約が集中することが十分に予想されるが、関係者は「コロナ禍は国難です。覚悟はできています」（中村隆人・中村クリニック副院長）ときっぱり言い切る。36歳の若きドクターと彼を支える女性スタッフが満を持して立ち上がった。

（※5月24日時点の取材に基づく情報により記事を構成しています）

当面は週504人のペースで ワクチン接種

新潟市の75歳以上と、65歳以上で基礎疾患を持つ高齢者を対象にした新型コロナウィルスワクチンの個別接種が5月24日、市内の医療機関で本格的に始まった。

当日の午後1時半過ぎ、記者はJR新潟駅南口からほど近いブライカー1の2階に入居するブライカ中村クリニックに中村副院長を訪ねた。

ちょうどお昼休みに入った時間帯だったが、同副院長は当日午前中の新型コロナワクチン接種の実績を以下のように

に話した。

「今日は初日ということでスタッフもまだ慣れていませんので、混乱を避けるために予約を少なめに入れてさせていただきました。それでも午前中の診療で約40人の方々にワクチン接種することができました。午後の診療でも同様に約40人の方々に接種できる見通しです」



▲新潟大学医学部出身の中村隆人・ブライカ中村クリニック副院長

同クリニックはいくまでもなく大病院ではなく、真正正銘の個人が開業するクリニックだ。院長、副院長以下、女性スタッフら総勢十数名で診療等に当たっている。

にもかかわらず、なぜ1日当たり80人に対してワクチン接種できるのか？ もっとも同クリニックは「当面は週に504人のペースで接種しますが、効率的に進めれば1日当たり最大120人に対するワクチン接種が可能」（中村副院長）とも話している。

読者が日頃世話になっているかかりつけ医が個別接種を行っていたとしても、その規模はこれほど大掛かりなものではあるまい。実際のところ1日当たり12人分や18人分の接種がやっとなというクリニックが少なくないといわれている（※ファイザー製ワクチンは1バイアル瓶で6人分接種できるため多くの場合、接種人数は6の倍数となる）

二次救急指定病院と同様に 冷凍庫を導入して長期保存

なぜ中村クリニックは規模が小さいながら、多くの人たちにワクチン接種することができるのか？

中村副院長が説明する。

「通常のクリニックはサテライト型接種施設といって、基本型接種施設からワクチンを譲り受けて接種します。基本型接種施設のほとんどは二次救急指定病院です。つまり一般のクリニックは大きな病院からワクチンを少

量ずつ譲り受けて、少しずつ患者さんに打っていくわけです。これに対して当院はスタッフ全員がかかりつけの患者さんだけでなく、初めて訪れる患者さんも含めて間口を限定せずにより多くの人たちにワクチン接種することに同意

してくれました」（中村副院長）

本誌が調べたところ、個人が開業するクリニックが基本型接種施設になっていくケースは、県内でもおそらく中村クリニックだけとみられる。

中村副院長が続ける。「基本型接種施設になると行政からデイブフリーザーと呼ばれる冷凍庫が貸与され、ワクチンを冷凍保存することができます。よりたくさんの人たちに接種することができます」（同）

「同クリニックはマイナス75度Cの超低温でワクチンを冷凍保存できることから、保存期間は14日程度といわれている。当然ながら基本型接種



▶中村クリニックが保健所から貸与を受けたワクチンを冷凍保存するための「デイブフリーザー」

施設では1千人分、2千人分、3千人分ものワクチンを常備することができると、スタッフの陣容や診療体制の問題をクリアすれば数多くの人たちへの接種が可能となる。

これに対して基本型接種施設の「デイブフリーザー」から取り出して移送されたワクチンは、サテライト接種施設では冷蔵保存されることから、保存期間は5日程度と大幅に短くなる。つまりワクチンの供給を受けてから5日以内に使い切らなければならないのだ。

「サテライト型接種施設は調達は寿司屋の魚の仕入れのようなも

ので、過不足なく使い切るためには微妙なサジ加減が必要となるのだが、これが実に難しい。多くのクリニックが指定されているサテライト型接種施設にはもともと「大量仕入れ、大量接種」が極めて困難な事情がある。

一方、中村クリニックが今回、基本型接種施設として個別接種をするに至るまでには相応の布石もあった。同クリニックは昨年来のコロナ禍で、県内でも早く発熱外来を開始したほか、PCR検査や抗原検査も他のクリニックに先駆けてスタートさせている。

こうした実績を保健所等の

接種といっても個別接種と集団接種の2種類があることはよく知られている。公共施設などを会場に行うのが集団接種、クリニックなどが行うのが個別接種で、いうまでもなく中村クリニックが行っているのは個別接種だ。

新潟市民にかぎらず、個別接種の予約の取りづらさに辟易とした人たちが多くに違いない。何度電話をしてもつながらないものだから、半ば諦めている人も多いのではないか。

多くの人がこのような苦い経験をしていることもあって、中村クリニックが1日当たり80人にワクチン接種をしたと聞いて驚いた向きも多いことだろう。

広告

行政も高く評価した模様で、中村副院長は「当院が基本型での個別接種を検討していたところ、保健所さんのほうからも積極的な働きかけをいただいたことから、実を結びました」と振り返る。

国難に立ち向かう 誇り高きスタッフたち

中村副院長が話す。

「クリニックがワクチン接種するにあたっては、人手が足りない、スペースが確保できない、専門のスタッフを新たに雇用する金銭的余裕がない、など、いくつもの障害が立ちほだかっています。」

また既存のスタッフにしても、すでに限界ギリギリまで忙しく働いているところに新たな負担がのしかかることや、感染リスクなどについても不安があったと思います。当院のスタッフの中にもそのような気持ちがあったわけではないでしょう。しかし、時間をかけてワクチン接種の社会的意義について説明したところ、

「新潟市ではワクチン接種を受けなければならぬ全人口の1割しか集団接種を受けられないのが実情です。では残りの9割の人たちに対してどのようにワクチン接種をしていくかという、当院のようなクリニックが頑張っ打っていくしかないのです。」

これはクリニック単体の問題ではなく、まさしく社会の問題です。大阪では医療崩壊が深刻ですし、失業率の上昇や消費の落ち込みなどもリーマンショックに匹敵する状況になっています。

コロナ禍は国難だと受け止めていますので、国が掲げているように高齢者の皆さんに対するワクチン接種はなんとか7月末までに済ませなければなりません。当院としてもその目標に向かって、微力ながら努力していきたいと思えます。」(同)

とはいえ個別接種にばかりウエイトをかけて、日常の診療をおろそかにするつもりはいっさいない。「社会的意義のある仕事です

が、いつも当院をご利用いただいているかかりつけの患者さんにご迷惑をかけることがとても大事です。」

スタッフが過労に陥ってクリニック自体が回らなくなってしまうたら、患者さんたちにご迷惑がかかってしまいますので、通常の診療時間内にワクチン接種も頑張り、日曜はお休みとさせていただきます。

小さなクリニックですから、スタッフが疲弊して一人でもいなくなる診療に支障を来してしまいます。スタッフ全員が歩調を合わせていけるベースを維持しながら、いかに効率よくワクチン打っていかかが大切です。」(同)

同時に地域に対する感謝の気持ちも忘れない。「当院は大きなビルに入居するテナントのひとつであり、今回このように基本型接種施設として多くの方々にワクチン接種をしていただく態勢を整えることができましたのは、他のテナントさんやビルを所有されている木山産業の木山光社長、同社社員の皆様のご理解の賜物であり、心

から感謝しています。」(同) 中村クリニックはJR新潟駅南口からほど近いプラカ1の2階に入居しており、鉄道やバスなど公共交通機関によるアクセスは抜群だ。ワクチン接種に積極的に取り組んでいる同クリニックの存在は、新潟駅南地区の発展の一助にもなり得よう。

なお中村クリニックでのワクチン接種予約はすべてホームページの専用フォームを通じて行う。電話予約は受け付けていない。

接種日時を予約することができるのはもちろん、当日の順番待ち予約も可能となっている。

プラカ中村クリニック
 新潟市中央区笹口1-1
 プラカ12階
 ☎025-240-0426



新型コロナウイルスワクチン
専用予約フォーム